

平成29年度 第1回進路指導研修会 記録

- 1 日 時 平成30年1月26日(金) 13:00~17:00
- 2 場 所 静岡北高等学校 高校棟 6階 ハイグレード教室
- 3 研修目標 「教育改革に備える」
- 4 参加者 27名
- 5 内 容

(1) 部会長挨拶 : 静岡北中学校・高等学校 廣住 雅人 校長
時候の挨拶、出席者に対するお礼の言葉、今回の講演会のテーマ設定の意義とねらいについて述べ、講演会の講師の山下真司様の紹介をした。

(2) 講演

演題: 「高校現場は今、何が求められているのか？」

～これからの社会を生き抜く生徒たちに、どんな資質・能力を育むか

講師: (株)リクルートマーケティングパートナーズ

「キャリアガイダンス」編集長 山下真司 様

新テストの理解や対策だけでなく、「教育改革」の狙いを踏まえ、これからの学びとは？

変化の激しい、予測できない社会において必要となるのは、「学び続けられる人」の育成

・20年後の社会の姿はどうなっているのでしょうか？

アメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に今は存在しない職業に就くと言われ、今後10~20年で47%の仕事が自動化される可能性が高いと言われてい
る。そのような世の中で人間がAI(人工知能)よりも得意とすることは何でしょうか？

〈人工知能が人間に勝る働き方〉

- ①書類作成
- ②記憶力
- ③計算力
- ④データ検索&解析
- ⑤オペレーション業務全般

〈人間が人工知能に勝る働き方〉

- ①コミュニケーション
- ②身体性
- ③発想・アイデア
- ④直感・センス
- ⑤イノベーション

・生徒たちにどのような資質・能力を育むか？

〈これまでの社会〉

工業化社会 [情報処理力]
知識・技能の「習得」と「再生」

〈これからの社会〉

知識基盤社会 [情報編集力]
知識・技能の「活用」

価値の継承と「競争」
 1人のリーダーとフォロワー
 同質化社会で積み上げるキャリア
 同一文化の中で暗黙の理解

新しい価値の創造と「共創」
 個々人がリーダーシップを発揮
 自分のキャリアを切り開く力
 異文化の中で多様性の許容

高校、大学の教育と入学者選抜テスト

～すべての若者が夢や目標を芽吹かせ、未来に花咲かせるために～

①「新しい学力観」

学力の3要素…これからの社会で自立して活動していくために必要な力という観点で捉え直す。

「主体性・多様性・協働性」

これからの時代で生きていくために必要な「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」を養う。

「思考力・判断力・表現力」

自ら課題を発見し、その解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な「思考力・判断力・表現力等の能力」を育む。

「知識・技能」

その基盤となる十分な知識・技能の習得。

②「新テスト」の主な概要

・共通テスト

現 行	平成32年度以降
大学入試センター試験	大学入学共通テスト
全教科 マークシート	[国語] 記述式 3問程度(80～120語) 〈試験時間〉80分⇒100分
	[数学] 記述式 3問程度(数式、解法など) 〈試験時間〉60分⇒70分
	[地歴] 平成36年度から
	[公民] 記述問題の導入を検討
	[理科]
	[英語] 4技能:「読む」「書く」「聞く」「話す」について 各大学の判断で共通テストと認定

	試験のいずれか、または双方を選択 利用(平成35年度まで)
--	----------------------------------

・個別選抜 「学力の3要素」を多面的・総合的に評価

現行	平成33年度以降
「一般入試」 する	⇒ 「一般選抜」(実施時期は共通テスト後、2月以降) ・筆記試験に加え、調査書や志望者本人が記載 資料等の積極的な活用 ・記述式問題の導入・充実 ・英語4技能評価の導入
「AO入試」 月) 実施要項 「知識・技能の習得状況に 由 過度に重点を置いた選抜と せず…」	⇒ 「総合選抜型」(実施時期は共通テスト前、8～9 月) ・左記記述を削除 ・本人の記載する資料(活動報告書、大学入学理 書、学修計画書等)を積極活用
「推薦入試」 月) 実施要項 共通 「原則として学力試験を	⇒ 「学校推薦選抜型」 (実施時期は共通テスト前、11～12 月) ・各大学が実施する評価方法、又は「大学入学 テスト」の少なくともいずれを必須

免除し…」

・調査書で「学力の3要素」を評価

・生徒の学びを、多面的に評価する

「キャリア・パスポート(仮称)」の活用で、学びを意味づけ、振り返り調査書、推薦書等、高校の活動履歴をより細かく評価

(調査書の見直し)

「指導上参考となる諸事項」の欄を拡充

①各教科・科目及び、総合的な学習の時間の学習における特徴等

②行動の特徴、特技等

③部活動、ボランティア活動、留学・海外経験等

④取得資格・検定等 ⑤表彰・顕彰等の記録 ⑥その他

「評定平均値」⇒「学習成績の状況」に改称

平成36年度の指導要録の見直しを踏まえ、さらなる見直しを検討

「総合的な学習の時間の内容・評価」欄を上部に配置

(推薦書の見直し)

本人の長所+「学力の3要素」に関する評価を記載

生徒の努力を要する点も記載→ その後の指導に活かす

(志願者本人の記載する資料)

「活動報告書」の活用

①「総合的な学習の時間」等で取り組んだ課題研究

②学校内外で意欲的に取り組んだ活動

⇒生徒会、部活、ボランティア、資格、検定、留学、特色ある活動等

動き出した大学入学選抜

〈京都大学〉「特色入試」の評価の観点

基礎学力+学びの足跡+学びの意欲

〈早稲田大学〉

スポーツ科学部の一般入試で小論文の導入

〈鎌倉女子大学〉AO入試(高大接続型)

「学力の3要素」を評価できる入試への改革

〈北陸大学〉「21世紀型スキル育成AO入試」コンピテンシー(行動特性)評価型

1日(6時間)の研修をとおして行動特性を評価

次期学習指導要領 ～社会に開かれた教育課程～

「それぞれの学校の学びの魅力が行かせるチャンス」

幼稚園…平成30年度～ 小学校…平成32年度～ 中学校…平成32年度～

高校…平成34年度～

☆次期学習指導要領のキーワード

答申文書の中で使用されている言葉の回数は？

- ・主体的、対話的で深い学び 56回
- ・社会に開かれた教育課程 28回
- ・思考力、判断力、表現力 68回
- ・カリキュラム・マネジメント 53回
- ・探求 163回

「資質・能力」 559回

☆その教科ならではの思考の枠組み、「見方・考え方」を活かす

- ・学校での学びが将来にどうつながっているか。

(受験や就職のためだけの学びではないはず)

「人間の学習とは」

解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続きを効率的にこなしたりすることに定まらず、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考える。

主体的に学び続けて自らの能力を引出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身につける。

子供たち一人一人が、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自ら可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となっていけるようにすること。

そのために大切なのは教員の「授業観」で、生徒理解の上に成り立つ授業デザインである。

☆主体的・対話的で深い学び

視点① 学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的」な学び

視点② 子供同士の協議、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深める「対話的」な学び

視点③ 各教科等で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、問いを見出して解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想、創造したりすることに向かう「深い」学び

(3) グループワーク

司会：(株)リクルート マーケティング パートナーズ

まなび事業本部 高校支援統括部 支援推進2部東海グループ 河瀬 和雅 様

参加者が4名1グループで①アクティブラーニング ②ICT教育 ③教育改革 の3点について各校の取り組みなど情報交換を行い、講演の振り返りを行い情報の共有化を行った。

(4) 閉会の言葉 : 静岡北中学校・高等学校 廣住 雅人 校長

講演の振り返りと研修をとおしての講評をした。

以 上

【記録：副部会長 静岡北高等学校 教諭 大橋久夫】